

まちづくり専門家プロフィール

ふりがな	かどわき あつし	
氏名	門脇 篤	
区分	アドバイザー	コンサルタント
専門分野又は得意とする分野 ・ アートとまちづくり		
主な実績 ・ 2019.3～2024.9「つながる気仙沼プロジェクト」(気仙沼市、インドネシア・ポノロゴ市など) ・ 2012.1～2020.3「おしるこカフェ」(仙台市太白区长町の仮設住宅、復興住宅) ・ 2010.11～現在「アート・インクルージョン」(仙台市青葉区一番町と周辺地域) ・ 2021.7～現在「Strangers in Sendai」(仙台市、パレスチナなど)		
資格等		
まちづくりに関する活動履歴 ・ 2003年、仙台市一番町、いろは横丁を会場に行われた宮城教育大学教授村上タカシ氏のプロデュースによるアート・プロジェクトに参加したことをきっかけに、仙台はじめ東鳴子、塩竈、岩見沢、大阪、船橋、歌舞伎町、北千住、滋賀県栗東、気仙沼、バンダアチェ、ポノロゴ(いずれもインドネシア)など各地で、まちづくりとアート活動・創造活動を組み合わせたプロジェクトを展開してきました。 ・ こどもや高齢者、障害のある人、外国人らマイノリティ状況に置かれた人々と地域住民とが、自分たちのやりたいことを通じてつながり、交流する中で、地域課題について考えたり、それをテーマにした表現を生み出したりする、「コミュニティアート」と呼ばれる手法で20年以上にわたり、まちづくりやコミュニティの場づくりを行っています。 ・ 「表現」や「アート」というと敷居が高く感じる人もいますが、「遊び」や「食」など、自分が好きなもの、自分のまちでやってみたかったことを、自分ではない誰かとやってみる取り組みで、ひとりでは予想しなかった体験やゴールに到達する体験をされる例が多く見られます。20年以上にわたり、そうした活動をさまざまな団体や施設、個人と行ってきました。		

まちづくりについて考えること

・多様性の重要性が認知されて久しく、すでに多様性が重要であることは当然のことであり、その中で私たちはいかにその多様性を保ったまま共生しうるかにまちづくりの課題は移っていると認識しています。

・多様であれば多様であるほど、自分とは違う他者と出会う機会は増え、他者とどう折り合いをつけていくかに直面していきます。互いをどう理解し合い、受け入れられるように折り合いをつけていったらいいのか、つまり、多様性を前提としたまちづくりをどう行なっていったらいいのか？そこで重要になるのが、「表現」と「協働」だと考えています。

・自分を理解し、他者を理解する上で、何かを表現すること、それとともに表現していくことは非常に重要です。言葉だけによらず、その人の内にあるものを外に見えるようにすることで、他者はその人について、支持できなくとも理解できるようになります。

そうした意味での信頼関係を作りあげた上で、具体的な個々の課題に向き合っていけば、自ずとまちは育っていくと考えています。